

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：柴田 雅子 作成日：2025年12月23日

1. 教育の責任

学修活動を通じて、地域集団における人々の健康栄養状態や社会・経済環境を把握し、公衆栄養活動のマネージメントについての必要な知識の修得を達成目標とする。「公衆栄養学Ⅰ」（秋学期2単位）「公衆栄養学Ⅱ」（春学期2単位）「公衆栄養学実習」（演習 秋学期1単位）「総合演習Ⅱ」（春学期1単位）「卒業研究」（演習 通年4単位）

学修活動を通じて、公衆衛生の立場から社会や環境との関連から人間の健康障害の成因を明らかにし、人々の健康を保持・増進し、一次予防を主な目的とする保健統計及び疫学指標の知識・生活習慣の現状と対策を理解し修得を達成目標とする。「健康管理概論」（春学期2単位）

2. 教育の理念

豊かな人間性と高い倫理観と社会的責任を有し、実践的な管理栄養士として必要な資質を保持するとともに、管理栄養士国家試験に挑戦できるレベルの総合的な能力を修得し、問題意識を持って課題を把握し、多様な人と協働し解決に導く姿勢を伝えていきたい。

3. 教育の方法

* 教育の目的と目標

・公衆栄養の活動を修得するために必要な日本の栄養関連法規とその政策の成り立ちを戦後から現在に至る時代背景と共に理解し、現在の公衆栄養活動の課題及び実践を理解し、将来の行政栄養士としての資質の向上を図り、豊かな人間形成を導くことを目的とし、過去の国家試験問題を授業の単元ごとに小テストで実施し、理解力を積み上げる。

* 教育実践

・国の政策を理解するための知識を身につけ、公衆栄養活動の方向性を見極め目標に向かって実践できる能力を育むための手法を、行政現場での事業を基に演習を積み上げることで実際の現場に必要な実力を積み上げる。

・国の保健統計から日本の栄養課題の現状分析や、関連法規の内容とその政策を理解し、保健所・保健福祉センター勤務の管理栄養士の業務の実態を臨地校外実習Ⅱを通して体験し、現場業務を理解し実践力を育む。

4. 教育の成果

行政勤務志望者から相談がある。栄養関連法規は十分な修得については時間を要しているが、単元ごとに小テストで内容の復習をしているので、学生からは高評価を得ている。演習実習はテーマ項目を多様に組み込み、現場での実践能力となる修得を成果の評価として毎回行っているが、個々の仕上がり時間に個人差はあるが、授業の遂行には問題はない。

5. 改善への努力と今後の目標

授業の配布資料に穴埋めプリントで確認項目を組み込んでいるが、学生とのコミュニケーションの時間を増やし、理解度の確認ができるよう行いたい。練習ではグループ演習を組み入れ、個人のアイデアだけでなく協調性を組み入れたが、その回数を増やして行きたい。

【添付資料】

サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 公衆栄養学、公衆衛生学健康管理概論を活用